

図工美術研究委員会

1 研究テーマ

「一人ひとりが表現する喜びを味わう図工美術学習のあり方はどうあったらよいか」

～ 素材体験と空間への働きかけ ～

2 研究内容

公開授業研究日：平成22年11月17日（水）

授業会場及び授業者：高山小学校 鈴木真宏 先生

授業学級：5年2組（24名）

助言者：丸子中央小学校長 小林幸雄先生

題材名：「つなげて つなげて（造形あそび）」

主眼：集めてきた毛糸を使って図工室内のものをつなげていくことを思いついた子どもたちが、机や壁などを思い思いに毛糸でつなげていく活動を通して、つなぐ場所やつなぎ方を考え、いろいろ発想しながら造形活動を楽しむことができる。

授業の様子：はじめの合図が終わるや否や、天井にはられた針金に毛糸をかける子。机の足に丁寧に毛糸を結んだ後ゆっくりと次に結ぶ場所に思いをはせる子。思い思いに活動を始めた子どもたち。

机の上を渡り、毛糸の間をくぐり抜け、所狭しと動きまわり、夢中になって、毛糸をまき、結ぶこと、三十分。

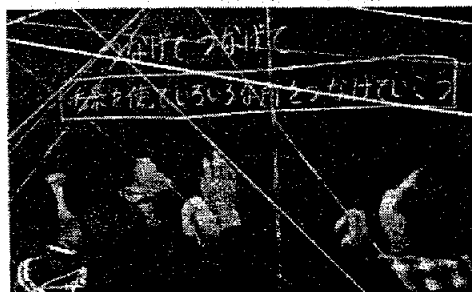
図工室は、まるでカラフルなクモの巣、あるいは巨大迷路のような空間に変容した。

途中床に寝転び、活動の足跡をじっと見つめる姿も見られた。

先生からの活動終了の合図には「もっと続けてやりたいな。」という声が多く上がった。

授業の終末に子どもから出された意見

「今日の授業は、アドベンチャーのようで、本当に楽しかった。」がこの1時間の成果を物語っている。



3 研究の成果と課題

○成果：素材のよさ、場の設定の工夫によって、技能面の抵抗がなく、どの子も自信を持って取り組み、友との関わりの中で、発想が広がり意欲的な追求がされた。

(1) 素材（毛糸）のよさ

柔らかく、さわり心地がよい。太さや色合いが豊富で変化が出せる。張り方によって、硬い、柔らかいなど線の表情が多様である。軽く持ち運びやすく、結びやすいため、どの子にも抵抗が少ない素材であった。準備や片付にも便利である。